



ガソリンの取り扱いにご注意ください

ガソリンは、取り扱いを誤ると大変危険です。ガソリンを取り扱う際は、次の点を確認し、火災を予防しましょう。

① ガソリンの危険性

- ★ ガソリンの引火点は -40°C で、小さな火源でも爆発的に燃焼する物質です。
- ★ ガソリンの蒸気は空気より重く、穴やくぼみなどに溜まりやすく、離れたところにある火源（ライター等の裸火、静電気、衝撃、電気スイッチの火花等）によって引火する危険性があります。

② ガソリンを入れる容器

- ★ ガソリンを入れる容器は、消防法令により、一定の強度を有する材質でなければならず、また、その材質により容量が制限されています。
- ★ 特に、灯油用ポリ容器にガソリンを入れることは、静電気により着火の危険性があるため、絶対に行わないでください。



灯油用ポリ容器



ガソリン用携行缶（金属缶）

容器の 容量制限	プラスチック製容器	10リットル以下
	金属製容器	60リットル以下
	金属製ドラム	250リットル以下

③ ガソリンを取り扱うときの注意事項

購入時



- ★ 消防法令の基準に適合した容器で購入してください。
- ★ セルフスタンドでは、利用客が自らガソリンを容器に入れることはできません。

保管時



- ★ ガソリンを容器に入れて保管することは極力控えてください。（火災が発生すると爆発的に延焼拡大するため）
- ★ 消防法令に適合した容器で保管する場合でも、合計40リットル以上のガソリンを保管する場合は、消防法令の基準に適合する建物で行わなければならない、事前に消防に届出することが必要です。